

板橋通信

公益財団法人東京YWCA
板橋センター

〒174-0043 板橋区坂下 1-34-25

tel03-5914-1854 fax03-5914-1852

e-mail itabashi@tokyo.ywca.or.jp

HP www.tokyo.ywca.or.jp/

FB https://www.facebook.com/ywcatokyo/

コロナ禍での板橋センター

一年前の晩秋の日曜日。「来年のクリスマスバザーは11月29日(日)です。皆さんとの再会を心待ちにしています!」とアナウンスしてバザーの幕を閉じました。そこからたった3か月で世界中がこんなことになるとは…。「再会」この二文字の重みを痛切に感じます。

1966(昭和41)年、都営三田線開通前の志村坂下に、地元の方のご寄付によって板橋センターがオープンしてから54年。いつの時代も、YWCAの活動は「今、ここで(Here & Now)」必要とされている事柄に耳を傾け、できる人ができる力を発揮して、一人一人がかけがえのない価値ある存在として大切にされる平和な社会の実現を目指して、多様な活動をしてきました。

コロナ禍の中では、地域の皆さんと多くの再会や新たな出会いが起きるクリスマスバザーは開催できませんでしたが、次ページからご報告する様々な事業や活動は緊張感を保ちながらもおいでになる方々にとってのセーフスペースを目指して、試行錯誤しながらその時々判断を重ねています。

♪♪「また明日!」「また来年!」「また今度!」「また会えたね!」「また会おうね!」♪♪

再会の喜びと安堵が行き交うセーフスペースであり続けたいです。元気でいきましょう。

(社会福祉第1事業部統括責任 土岐祥子)



<キッズガーデン 乳幼児グループ> マスクを着けるのが苦手なお子さんも多いですが、徐々に慣れて長い時間着けられるようになりました。マスクに隠れて口元や表情が見えにくいので先生たちは普段以上に配慮して関わっています。



夏の特別プログラム・綿あめ作り!

<キッズガーデン シマウマくらぶ>

大きなパラバルーンで遊びました。

工作に集中!
<きらりんこ>

センターでの活動は、換気・手指消毒・検温を徹底して続けています。

東京YWCAキッズガーデン(児童発達支援センター・放課後等デイサービス)

キッズガーデンの療育(乳幼児のグループ)は、緊急事態宣言が出された4月から5月末まで、分散登園と在宅支援に分かれました。登園児は1番広い療育の部屋で、全学年合同で過ごし、消毒などの感染対策は勿論ですが、子どもたちがなるべく日常の療育に近い形で発散ができるようにしました。お庭で乗り物遊びなど、自由遊びを楽しんでから粗大運動や工作などに取り組みました。小学生～20歳までの「シマウマくらぶ」では、4つの内の半分のグループが始業式を終えた直後に自粛期間になりました。自粛中は人数を半数にして、風船バレーやボウリング・水遊びなどの身体を動かす遊びで発散しました。

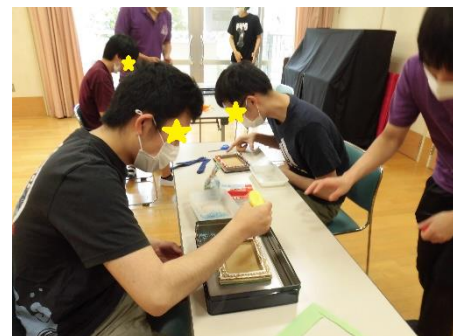
また、在宅で過ごしたご家庭は登園曜日に電話で様子を聴かせて頂きました。職員も密を避けるため、在宅ワークを初めて取り入れました。自宅から専用電話でお話させて頂いた職員もいた中で、遊び方や関わり方などを提案したり、刻々と巡る様々な思いを聴かせて頂いたりしました。

保護者⇄キッズで勤務の職員⇄在宅勤務の職員!皆でリレーのように子どもたちの育ちを引き継げたことは、登園再開以降の大きな支えです。保護者のご心配をよそにあの時子どもたちが見せてくれた生命の力に感激でした!今後も日々を積み重ねましょう。共に。

(職員 柴田澄美代)



乳幼児のグループ。職員が子どもの後ろについて必要に応じて手助けします。



シマウマくらぶ。子ども同士が密着しないように席の配置などにも配慮して実施しています。

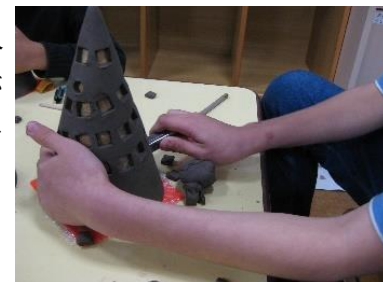
発達に課題やニーズのある子どものサポートプログラム

にじいろ教室(陶芸・ヨガ&ダンス・にじいろキッチン)

3月頭に突然始まった長い春休み。急なことにどう対応したらよいのか混乱する大人たちに対して、にじいろ教室に通う子どもたちは普段学校で周りのペースに合わせてがんばっている分、自分のペースでのびのび、安心できる場所で過ごせるステイホームを満喫していた様子でした。とは言え、長すぎるお休み、外出やレジャーが憚られる状況、再開した学校での新しいルール…子どもたちのフラストレーションも溜まっているようです。にじいろ教室は4月中旬～5月中旬を

お休みにした後は換気など感染予防に努めながら通常通り活動をしています。

子どもたちにとって顔なじみの友だちや先生と一緒に好きなことをのびのび楽しめる場所として続けていきたいです。(職員 五十嵐菜々子)



障がい児「きょうだいの会」

きょうだい児が主役のプログラム「きらりんこ」の春休みお泊り会を週末に控えた3月25日(水)、東京都知事が週末の外出自粛要請を発表しました。社会全体で緊張感が走る中、それでもきょうだい児が思いきり遊び発散できる時間が必要、と短時間の日帰りプログラムに変更し実施しました。4月に計画していた「ふぁみりんこ(家族プログラム)」は中止にしました。「きらりんこ」と「いどばた(親同士の情報交換)」は8月に再開。久しぶりの「いどばた」では突然の休校以降、大人も色々溜めて抱えてきた思いを吐露する時間になりました。

「きらりんこ」はコロナ禍においても子どもたちのために、とボランティア・リーダーたちが使命感をもって活動を続けてくれています。これからも、できる限りの形で活動を続けていきます。(職員 五十嵐菜々子)



東京YWCAケアサポート板橋(居宅介護支援・訪問介護)



今年の1月頃から、コロナウィルスの報道が始まり、あっという間に町ではマスクや消毒薬が消えました。ウィルスのことが詳しくは分からないながらも、介護サービス事業所としてまずは予防対策として「マスク、消毒薬、使い捨ての手袋の確保」に努めました。

特に訪問介護ではサービスを中止するということがご利用者の生活に支障をきたします。感染しないこと、そして感染させないためにも毎月のミーティング時には繰り返し予防対策や新しい情報について学びました。ケアマネジャーは毎月のモニタリング訪問や担当者会議などをできるだけ三密にならないように心がけて訪問しました。

流行当初は感染予防のために、外出の支援は休止したご利用者もいらっしゃいましたが、現在は比較的通常のサービス利用に戻っているといっただいでしょう。幸いなことに現在まで、サービス利用者にも、支援する職員・ヘルパーにも感染者は出ていません。

今後感染者はまだ増えると予測されますが、変化する状況を見ながら、緊張感をもってサービス提供をして、利用者の在宅生活を支援していきます。

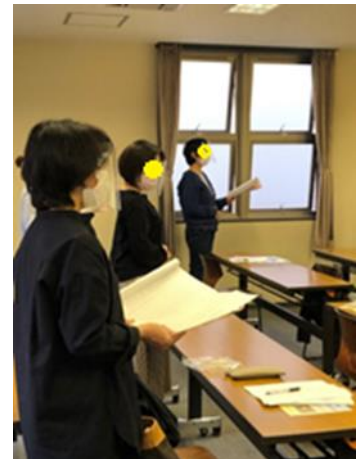
(所長 和田稲子)



読むことが困難な人々への支援 (DAISY<デイジー>)

読むことが困難な人々への支援事業 (DAISY) は、緊急事態宣言を受け、お茶の水の会館が閉館となり、通常の活動はできなくなりました。が、できることを自宅にて取り組みました (在宅モニターやPCでの編集作業等)。但し、リスナーへの発送作業だけはどうしてもお茶の水の会館でないとできなかつたため、2ヶ月分をまとめて送るグループもありました。宣言解除を受け、早速リスナーへ発送したところ、『このような中、活動を継続して下さったのですね。有難うございます。』と、嬉しいお言葉をいただき、メンバーの士気もより一層高まりました。

(職員 眞壁智未)



ボランティア養成の「音訳講座」はマスクとフェイスガードを着用して実施しています。



NPO 法人東京YWCA福祉会

東京YWCA 板橋センター つくい館で「Y's コート ゆい」(障がいのある人の働く場)、高島平で「Y's ホーム ハイホー」(暮らす場)を運営しています。

今年は、コロナ感染のニュースで始まりました。最初に影響を受けたのは「Y's ホーム ハイホー」(グループホーム)です。利用者に発熱があっても病院からはまず保健所への電話をとということで受診ができず、自室から出ないように留意したり、ご自宅に帰って一週間様子をみたりと、ハイホー、家庭、就労・通所先との連携を密にしながら生活しています。また、利用者、職員、ご家族の検温、ドアを開けるところからの手指消毒等を徹底して感染予防しながら過ごしています。緊急事態宣言により利用者は通園や通勤が自粛となったため、普段は不在にしている日中もハイホーで過ごすことになり、「Y's コート ゆい」(就労継続支援 B 型)の職員が交代で応援にかけつけ、車いす利用の方の介助をサポートしました。

「Y's コート ゆい」は4月に就職した方を送り出し、3名の新しい利用者の方々を迎えました。ゆいに慣れる間もなく、4月7日の緊急事態宣言から5月末の解除まで、通所自粛や時間を短縮しての通所が続きました。現在は、作業環境の三密防止策、手指消毒、マスク着用を徹底して通常通り通所しています。

カフェ JOY の営業休止、受注作業の依頼の激減、区役所・東京 YWCA などでの自主生産製品(アクセサリ等)の販売がすべて中止となり、売上が激減しました。そうした状況の中、5月18日からカフェ JOY の店頭で一つ500円の弁当販売を開始し、7月からはイートインも始めました。また、7月からは季節に応じてカフェ JOY 前の駐車場でテントを張ってバザールを始めました。工賃を得ること、販売の練習の場にもなり、地域との交流にも役立っています。

キッズガーデンの皆様はじめ、本当に多くの方々の応援に心から感謝申し上げます。(理事 新田和子)

コールライゼ

今年創立20周年を迎え、6月に第10回定期コンサートを予定していましたが2月から新型コロナの影響を受けて練習を中断、現在に至っています。「コーラス用のマスク」を取り寄せて、いざ11月から練習を再開しようと準備を進めていた矢先、都内の感染者数が増え始めて内田先生と苦渋の決断をしました。ここまで我慢をしたのだから今焦らずにもう少し辛抱してみましよう…と。

どうかこの想いが天の神様に届きますように。今の仲間が揃って来年の春、またホールに明るい歌声を響かすことができますように。

皆さん健康に気をつけてコロナ禍を乗り越えていきましょう！

(関森紀代子)



いたばし聖書の会

3月に学校の休校を受けて、聖書の会もお休みに入りました。その間、メンバーの皆様には講師の高橋先生が目白教会のYouTubeで日曜ごとにメッセージを配信していることをお伝えしたりしました。従来のような対面での会は、7月からボランティア室の窓やドアを開け放ち本格的に開始しました。久しぶりに、お会いしてマスク越しですがお顔を見ながらお話ができる喜びを味わいました。対面での会は格別の趣があるとあらためて感じています。

コロナ禍で思いがけず生活の見直しを迫られています。聖書の教えが私たちの歩みの灯となり杖となることを励みに、学びを続けてまいります。

(坂口和子)



絵本であそぶ

3月までは今のような状態になるとは予想もできず、4月もまたお会いしましょうね、と話しておりましたが、緊急事態宣言以来8月まで休会していました。

その間に大切な方を見送られた方、辛い思いを耐えていらした方のことを後からお聞きし、今思えば何らかの方法でメンバーの皆さんと連絡を取り合えたのでは、と思っています。

9月からは、お茶とお菓子こそ控えています。換気、手洗い、マスク、フェイスシールド等考えられる防御策を取りながら再会、これからもゆっくりとしたひと時を過ごせる時間を大切にしていきたいと思えます。



(久利生ひろみ)

すまいるY'sいたばし

毎月集まれることは当たり前ではなかった！

月に一回ドライフラワーを使って、インテリア雑貨を皆で楽しみながら制作しています。

コロナ禍での活動は板橋センターの状況に合わせ、4月5月はお休みしましたが、他の月は参加の方と感染対策をして、無理のないよう声をかけながら活動をしていました。

久しぶりに対面して近況を伝え合えること、笑い合えること。そしてその日の制作は、また来月作る事ができますようにと心と祈りを込めた一期一会の作品。

改めて地域の大切な場であることを感じました。

今後も感染に気をつけながらその時々のできることを皆で考えて続けていきたいです。(河合ひとみ)



<この通信の内容に関するお問い合わせ先>

公益財団法人 東京YWCA 板橋センター 〒174-0043 東京都板橋区坂下 1-34-25

TEL 03-5914-1854 / FAX 03-5914-1852 (窓口は9時30分~17時30分)

e-mail itabashi@tokyo.ywca.or.jp

URL www.tokyo.ywca.or.jp/

 <https://www.facebook.com/ywcatokyo/>



東京YWCA

検索